



2023年10月4日

各位

会社名 株式会社くすりの窓口  
代表者 代表取締役社長 堤 幸治  
(コード番号：5592 東証グロース市場)  
問合せ先 取締役管理本部長 外間 健  
(TEL：03 - 6712 - 7406)

### 東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2023年10月4日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2024年3月期（2023年4月1日から2024年3月31日）における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【連結】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2024年3月期 (予想)		2024年3月期 第1四半期累計期間 (実績)		2023年3月期 (実績)	
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率	対売上 高比率	
売上高		8,298	100.0	2,153	100.0	7,420	100.0
営業利益		1,233	14.9	458	21.3	1,050	14.2
経常利益		1,178	14.2	470	21.8	938	12.6
親会社株主に帰属 する当期純利益		751	9.1	301	14.0	391	5.3
当期純利益		766	9.2	305	14.2	477	6.4
1株当たり 当期純利益		72円61銭		32円81銭		42円64銭	
1株当たり 配当金		0円00銭		0円00銭		0円00銭	

(注) 1. 2023年3月期(実績)及び2024年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。

2. 2024年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募株式数(1,800,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。

## 【2024年3月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社グループ全体の見通し

当社グループは「ヘルスケア領域に新しい価値を提供します」を企業理念として、医・薬・介護に係るソリューションサービスを提供しております。

これから起こる超高齢化社会に伴う、医療業界の人材不足、医療費増加への対応として国が進めるDX化に伴う生産性向上が不可欠だと考えます。医療情報システム業界におきましては、オンライン資格確認導入に加え、電子処方箋の取り組みも開始されました。また医薬品出荷調整の影響が続く中、地域毎の医薬品を融通し合うことによる診療報酬上の特例措置が始まっております。このような市場動向は、医療及び健康管理分野に対してITを利用した様々なサービスを展開している当社にとっては好機と捉えニーズと課題を抽出し取り組んでおります。

当社グループの事業は、メディア事業、みんなのお薬箱事業、基幹システム事業から構成されており、これら事業の収益は、各種サービス導入時に初期費用収入として得られる「ショット売上」、月額利用料などの固定金額及び処方薬受取り予約に係る手数料収入や共同仕入れサービスの手数料収入など利用量に応じて変動する金額として契約に基づいて将来にわたって継続的に得られる「ストック売上」の2種類に区分されます。

「メディア事業」のコンセプトは「医療と患者をつなぐプラットフォーム」です。患者の利便性、薬局の効率性・生産性などの向上を目的としたサービスを展開しております。主なサービスは調剤薬局・ドラッグストアといった薬局の検索サイト/アプリ「EPARKくすりの窓口」です。立地や営業日など様々な条件を指定して薬局を検索できる他、患者が医療機関から受け取った処方箋をサイト/アプリ経由で指定した薬局に送ることで、処方薬受取りの予約ができる機能を有しております。薬局にとっては、処方する医薬品の準備が予めでき、患者にとっては、待ち時間の短縮につながるなど、双方にメリットが生まれます。また、新型コロナウイルス感染症が流行する環境下では、薬局店舗内の密を防止することにもつながります。

主な事業収益は、ストック売上として薬局からの処方箋のインターネット予約に係る手数料収入です。患者からの初回予約があった場合に当該患者に係る初回登録手数料が発生し、その後は初回よりも金額を抑えた手数料が当該患者に係る登録管理料として毎月継続します。この収益の一定割合をロイヤリティとして株式会社E P A R Kに支払っております。

「みんなのお薬箱事業」のコンセプトは「医薬品卸と薬局をつなぐプラットフォーム」です。薬局に対して様々なソリューションを提供するために当社が開発してきた独自事業であり、医薬品卸事業者と薬局における医薬品の流通改善を支援し、薬局経営の効率性・生産性及び医薬品卸事業者の業務効率などの向上を目的としたサービスを展開する事業であります。

主なサービスは、薬局や医療機関に代わって医薬品卸売事業者に対する医薬品の仕入価格交渉を代行する「みんなの共同仕入れサービス」です。当社関連会社のグローバル・エイチ株式会社が予め医薬品卸売事業者と仕入価格の交渉を行い、加盟している薬局等は交渉後の価格での仕入れが可能となります。医薬品卸事業者としては価格交渉の手間が省ける他、薬局としては個々の薬局等が単独で仕入れを行うのと比較して仕入ボリュームが大きくなるため、条件面でのスケールメリットを享受出来るスキームです。当社グループの主な事業収益は、ストック売上として、薬局等と医薬品卸事業者との間の医薬品売買における取引薬価、売買価格に応じて算定される手数料収入です。

また、薬局や医療機関における医薬品の在庫管理システム及び自動発注システムの機能を有する「eオーダーシステム」を提供しております。薬局等のレセプトコンピュータと「eオーダーシステム」を連携させることにより、人工知能（AI）が患者ごとの処方歴を把握し、必要な医薬品の種類と量を判断して自動的にリストアップします。それを基に自動的に医薬品卸売業者に、「みんなの共同仕入れサービス」加盟店であれば当社グループを経由して、医薬品の発注が行われます。これにより薬局等における過剰在庫の抑制、欠品の防止、薬剤師の事務負担軽減といった効果を目指すものです。

医薬品卸事業者についても薬局側の在庫管理が適切に行われることで、返品や急配送を減らし流通改善が図れます。主な事業収益は、ショット売上として薬局等からの初期導入費用収入及びストック売上としてシステム利用料収入です。

「基幹システム事業」のコンセプトは「医科、薬局、介護のデータ連携プラットフォーム」です。「医・薬・介護、個人ユーザー（患者）をつなぐプラットフォーム」を実現するためのラインナップの充実を企図し、医療機関、薬局、介護施設に必要な事務処理システムや情報システム等を販売しております。これらは主に当社子会社が行っており、主な事業収益は、ショット売上として初期導入費用収入とストック売上として月額利用料収入です。

2024年3月期の業績予想においては、3事業の利益最大化を図り、売上高は8,298百万円(前期比12%増)、営業利益は1,233百万円(前期比17%増)、経常利益は1,178百万円(前期比26%増)、親会社株式に帰属する当期純利益は751百万円(前期比92%増)を見込んでおります。

## 2. 売上高

### <メディア事業>

主な売上はストック売上であり、「EPARKくすりの窓口」による薬局からの処方箋インターネット予約に係る手数料収入です。1店舗当たりの処方箋インターネット予約利用数が増加傾向にあることから、初回手数料は季節要因を加味した2023年3月期(以下「過年度」)の成長率を基に算出した予約数と過年度の初回予約単価を用いて算出しております。毎月定額で発生する登録管理料は、前月の登録管理料収入全体に過年度の解約率を乗じて算出しております。EPARKくすりの窓口の予約数増加によるストック売上の増加を見込んでおります。

### <みんなのお薬箱事業>

主なショット売上は、「eオーダーシステム」の初期導入費用収入です。過年度の営業員一人当たり獲得実績に基づく新規顧客数(以下「新規顧客数」)と過年度の導入平均単価を用いて算出しております。

主なストック売上は、「みんなの共同仕入れサービス」の手数料収入と「eオーダーシステム」のシステム利用料収入です。「みんなの共同仕入れサービス」の手数料は、過年度の解約率を勘案した既存顧客数に新規顧客数を加算した顧客数全体(以下「顧客数」)を算出して、過年度の店舗当たり平均取引薬価と過年度の平均手数料率を乗じて算出しております。「eオーダーシステム」は、顧客数に過年度の平均単価を乗じて算出しております。顧客数の増加により、取引薬価総額が増加することでストック売上の増加を見込んでおります。

### <基幹システム事業>

ショット売上は初期導入費用収入であり、新規顧客数に過年度の導入平均単価を乗じて算出しております。

ストック売上は月額利用料収入であり、顧客数に過年度の平均単価を乗じて算出しております。顧客数の増加によるストック売上の増加を見込んでおります。

以上の結果、売上高は8,298百万円(メディア事業：3,117百万円、みんなのお薬箱事業：3,257百万円、基幹システム事業：1,924百万円、前期比12%増)を見込んでおります。

### 3. 売上原価、売上総利益

売上原価は主に支払手数料、業務委託費、仕入れ、減価償却費、労務費により構成されております。

支払手数料は「EPARKくすりの窓口」の予約売上に伴う(株)E P A R KへのロイヤリティとAmazon Web Services (AWS) のサーバ費用であり、インターネット予約の増加や医薬品売買の取引量の増加によるサーバ費用の増加を見込むものの、2023年4月からのロイヤリティ料率の変更に伴ってロイヤリティ関連費用が減少し、937百万円（前期比2%減）を見込んでおります。業務委託手数料は関連会社グローバル・エイチ(株)への手数料などであり、「みんなの共同仕入れサービス」の獲得増加に伴うストック売上増加により、550百万円（前期比31%増）を見込んでおります。仕入れは主に基幹システム事業の初期導入費用収入に係る機器などの原価であり、767百万円(前期比1%減)を見込んでおります。減価償却費はソフトウェア資産のものであり、引き続き商品開発に注力していくことからソフトウェア資産の増加を計画しており、それに伴い913百万円(前期比21%増)を見込んでおります。労務費は費用計上を行っているソフトウェア資産の開発費として、196百万円（前期比22%減）を見込んでおります。

以上の結果、売上原価は3,581百万円(前期比7%増)、売上総利益は4,718百万円(前期比16%増)を見込んでおります。

### 4. 販管費および一般管理費、営業利益

販管費および一般管理費は、主に営業・営業支援部門及び管理部門の人件費と、採用費、支払手数料、広告宣伝費、地代家賃、減価償却費等経費を見込んでおります。人件費と採用費は事業の拡大に伴う採用計画を基に策定しており、その他も費用は過年度の実績をベースに個別の増減要因を加味して作成しております。

以上の結果、販管費および一般管理費は3,484百万円(前期比15%増)となり、営業利益は1,233百万円(前期比14%増)を見込んでおります。

### 5. 営業外収益・費用、経常利益

2024年3月期は営業外収益を見込んでおりません。営業外費用は55百万円を見込んでおりますが、そのうち、9百万円が支払利息です。支払利息は金融機関からの借入に対するものです。その他の費用につきましては、新規上場に伴う費用です。

以上の結果、経常利益は1,178百万円(前期比26%増)を見込んでおります。

### 6. 特別損益、親会社株主に帰属する当期純利益

2024年3月期は特別利益、特別損益を見込んでおりません。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は751百万円(前期比92%増)を見込んでおります。

#### 【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であることを判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以上

## 2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年10月4日

上場会社名 株式会社くすりの窓口 上場取引所 東  
コード番号 5592 URL https://kusurinomadoguchi.co.jp  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)堤 幸治  
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)外間 健 (TEL)03(6712)7406  
四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	2,153	-	458	-	470	-	301	-
2023年3月期第1四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 305百万円 (-%) 2023年3月期第1四半期 -百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	32.81	-
2023年3月期第1四半期	-	-

(注) 1. 当社は2023年3月期第1四半期については連結財務諸表を作成していないため、2023年3月期第1四半期の数値及び2024年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。  
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、新株予約権の残高がありますが、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載していません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	13,376	3,099	22.4
2023年3月期	12,219	2,793	22.0

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 2,995百万円 2023年3月期 2,694百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年3月期	-	-	-	-	-
2024年3月期(予想)	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,298	11.8	1,233	17.4	1,178	25.5	751	91.8	72.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 ー 社(社名) ー 、除外 ー 社(社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年3月期1Q	9,180,000株	2023年3月期	9,180,000株
2024年3月期1Q	ー株	2023年3月期	ー株
2024年3月期1Q	9,180,000株	2023年3月期1Q	9,180,000株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

該当事項はありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が緩やかに持ち直しつつあるところ、ウクライナ情勢が長期化するなかで、エネルギー価格や原材料価格の高騰による物価の上昇や、円安等の影響を受け、依然として先行きの不透明な状況が続くと見込まれます。

医療情報システム業界におきましては、4月から始まったオンライン資格確認の導入の原則義務付けに加え、電子処方箋の取り組みも開始され、いわゆる医療DX化が国を挙げて推進されました。また一部医薬品の安定供給問題を踏まえ、後発医薬品の使用促進、地域支援体制加算等を含む診療報酬上の特例措置が2023年4月より始まり、12月まで9か月間、時限的に適用されることとなりました。

このような市場動向は、医療及び健康管理分野においてITを利用した様々なサービスを展開している当社にとっては好機と捉え、顧客基盤の拡大と、一般消費者に対するサービスの認知向上に努めてまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間においては、売上高は2,153,296千円、営業利益は458,016千円、経常利益は470,552千円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は301,211千円となりました。

当社は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末と比較して1,001,657千円増加し、9,553,468千円となりました。これは主に、みんなのお薬箱事業の共同仕入サービスにおける支払期間と回収期間の差の一時的な影響により現金及び預金が499,928千円増加したこと、受取手形及び売掛金及び契約資産が458,249千円増加したことによるものであります。固定資産は3,823,276千円となり、前連結会計年度末に比べ156,011千円の増加となりました。これは主に自社開発のソフトウェアが136,298千円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末と比較して1,157,668千円増加し、13,376,744千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末と比較して834,019千円増加し、9,959,505千円となりました。これは主にみんなのお薬箱事業の共同仕入サービスにおける支払期間と回収期間の差の一時的な影響により未払金が910,788千円増加したことなどによるものであります。固定負債は317,746千円となり、前連結会計年度末に比べ17,730千円の増加となりました。これは主に長期前受収益が20,800千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末と比較して851,749千円増加し、10,277,252千円となりました。

純資産は、前連結会計年度末と比較して305,919千円増加し、3,099,492千円となりました。これは主に利益剰余金が301,211千円増加したことによるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、変更はありません。

本日開示いたしました「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。



2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,946,649	6,446,578
受取手形、売掛金及び契約資産	2,381,320	2,839,569
その他	225,658	267,481
貸倒引当金	△1,817	△160
流動資産合計	8,551,810	9,553,468
固定資産		
有形固定資産	126,263	123,679
無形固定資産		
のれん	305,361	294,051
ソフトウェア	2,590,853	2,727,152
その他	244,557	299,447
無形固定資産合計	3,140,772	3,320,651
投資その他の資産		
その他	434,158	412,752
貸倒引当金	△33,928	△33,806
投資その他の資産合計	400,229	378,945
固定資産合計	3,667,265	3,823,276
資産合計	12,219,075	13,376,744

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	156,472	94,017
未払金	7,871,935	8,782,724
引当金	122,044	74,822
その他	975,034	1,007,940
流動負債合計	9,125,486	9,959,505
固定負債		
その他	300,016	317,746
固定負債合計	300,016	317,746
負債合計	9,425,502	10,277,252
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,640,149	1,640,149
利益剰余金	953,938	1,255,150
株主資本合計	2,694,088	2,995,300
新株予約権	1,843	1,843
非支配株主持分	97,641	102,348
純資産合計	2,793,573	3,099,492
負債純資産合計	12,219,075	13,376,744

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	2,153,296
売上原価	899,165
売上総利益	1,254,130
販売費及び一般管理費	796,113
営業利益	458,016
営業外収益	
持分法による投資利益	10,991
その他	4,707
営業外収益合計	15,699
営業外費用	
支払利息	2,008
上場関連費用	1,126
その他	30
営業外費用合計	3,164
経常利益	470,552
特別損失	
固定資産除却損	1,092
特別損失合計	1,092
税金等調整前四半期純利益	469,460
法人税、住民税及び事業税	131,877
法人税等調整額	31,663
法人税等合計	163,541
四半期純利益	305,919
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,707
親会社株主に帰属する四半期純利益	301,211

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	305,919
四半期包括利益	305,919
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	301,211
非支配株主に係る四半期包括利益	4,707

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは薬局、医療向けソリューションの開発および販売の単一セグメントであるため、記載を省略しております。